

県は今年、「高齢者や障害がある人の要望」を受けて、広島市と島根部を結ぶ旅客船ターミナルの整備計画を大幅に変更する決断を下した。これは藤田知事の政治スタンスが、県民の声を素早く施策に反映させる「県民起点の県政」であることの具体的な一例である。県が標榜する「日本で一番住みやすい生活県」の県土像などについて、知事にお話を伺った。

サイレントマジョリティを重視した「県民起点の県政」が私の政治スタンスです。

I will emphasize the opinions of the "Silent Majority", and will carry out policies that put the people of the prefecture first

住民参画型の地方自治についてどのように思われますか？

住民ニーズを的確に把握すること…

藤田 そこで暮らす1人ひとりの住民が、安心して幸福に暮らせる生活圏をつくるのが、地方自治の本来の目的です。地域社会の主役はいうまでもなく住民で、本質的には自己責任原則による住民自治が理想的な形だと思います。しかしながら、それが実現できない現時点では声なき多くの人々の声を、素早く県政に反映させることで、県民との信頼関係が生まれるのではないのでしょうか。サイレントマジョリティを重視した「県民起点の県政」が私の政治スタンスです。

できるだけ県民のニーズを的確に把握したい。そのために、県内の市町村で、住民との肩の凝らない直接対話の場を「ゆめ談義」と名付けて開催したり、「知事ファックス」を設けて住民の意見や要望を幅広くお聞きしています。

行政運営はとかくお役所仕事に流れがちで、民間企業の「コスト」「スピード」「成果」の感覚が不足しています。これではいけない。先例を重視するだけでは、組織は硬直します。民間の発想を取り入れ、時代の要請に機敏に対応できる組織に変え、先駆的な取り組みにもとんどん挑戦していきたいと思えます。

介護保険における市町村支援についてのお考えは？

県は市町村のコーディネーター役…

藤田 保健・福祉の中心的な担い手は市町村です。介護保

険の導入により、「住民政府」である市町村の役割は今後ますます重要になるでしょう。県としては最大限に市町村を支援していきます。

本県独自の「トータルケア推進交付金」制度は、市町村が地域の実状に応じて、保健・医療・福祉の分野を連携させ、総合的に在宅サービスを提供できる仕組みづくりを支援する制度です。介護保険導入後は、給付対象外の高齢者に対するサービスをどうするかなど、市町村の企画力がよりいっそう求められます。この交付金はほかの補助金と異なり、市町村が独自のプランでお金を使えるので、市町村の自主性を喚起する効果があります。

しかし財政規模が小さく、福祉インフラも整っていない町村の場合は、きめ細かなサービスを単独で提供するのにはむずかしいのが現状です。人材や施設の広域的な活用でサービスの質を維持しなければなりません。県は市町村のコーディネーター役となって広域連携を進めています。

都市交通や環境対策の基本方針をお聞かせください。

人と地球環境にやさしい交通環境を…

藤田 県の総合交通計画の基本方針は、人と地球環境にやさしい交通環境の創造です。

駅舎などの交通ターミナルを定期的に点検してバリアフリー化を推進するとともに、交通事業者の新車導入を支援しています。



広島県知事
藤田雄山氏

Mr. Yuzan Fujita Governor of Hiroshima Prefecture
ふじた ゆうざん ●1949年生まれ。1972年、慶應義塾大学商学部卒業。参議院議員をへて、1993年から現職。現在2期目

今年6月に運行を開始した超低床電車「グリーンムーバー」は、車イスのスペースや乗降用のスロープを備えたドイツ製の最新型で、車両価格は通常車両に比べて約5割ほど高く、その導入に対しては、国、県、関係市町が助成を行っています。

ヨーロッパでは人にも環境にもやさしい超低床電車を、都市交通の柱に置く都市が増えています。その理由は中心市街地の活性化や二酸化炭素削減です。

その流れはすでに日本にも波及しています。県としては、福祉的にも環境的にも、路面電車のリニューアルを支援していく所存です。

「ユニバーサルデザインのまちづくり」について、どのようにお考えですか？

住んでいてよかったと思える地域社会を…

藤田 県の目標は「日本で一番住みやすい生活県」の実現ですが、この目標の根底には、ユニバーサルデザインの思想が流れていると認識しています。

障害の有無や年齢にかかわらず、県民のだれもが住んでいてよかったと思える地域社会をつくりたい。県民の皆さんの声を聞き、県民起点の考えで、より良いものをつくっていきたくと考えています。

たとえば、広島市にある宇品内港旅客ターミナルの整備計画を例にあげましょう。

宇品港は全国で7番目に乗降数が多い港ですが、基本設計検討委員会でもとめられた当初計画では、安全性という観

点から人と車の接点を少なくするために、待合室の切符売り場を2階としていました。

しかし、高齢者や障害をもつ人から、「待合室が2階ではエレベーターが完備されていても上下移動が増えて負担につながる」との反対意見が出て、今年2月の公開説明会でも、同様の意見が相次ぎました。

安全性の確保の見直しをつけ、すべての人が利用しやすいよう待合室を1階にすることに決め、当初計画を大幅に変更しました。基本計画と実施計画をやり直すために、完成予定は1年遅れの2002年になりましたが、10億円程度のコストダウンにつながりそうです。

エレベーターを設備するよりも、よりユニバーサルデザインですね。

バリアを解消していく地道な取り組みを…

藤田 エレベーターを設備するにしても、エレベーターを使うことなく施設を利用できるという観点から、ユニバーサルデザインといえるでしょう。全県的にみると、物理的なバリアは依然として残されていますし、心のバリアの問題もあります。

すべての人が暮らしやすい地域社会の実現に向けて、保健・福祉・交通・環境・教育などの分野で、少しずつバリアを解消していく地道な取り組みをしていこうと思います。